感染状況・医療提供体制の分析(2月2日時点)

【2月3日モニタリング会議】

区分	モニタリング項目 ※①~⑤は7日間移動平均で算出			前回の数値 ⑴月26日公表時点)	現在の数値 (2月2日公表時点)	前回との 比較	これまでの 最大値	項目ごとの分析	
感染状況	①新規陽性者数 ^{※1} (うち65歳以上)			10,466.9人 ^(683.6人)	16,075.3人 (1,246.1人)		16,075.3人 (2022/2/2)	総括 コメント	大規模な感染拡大が継続 している
	潜在・市中感染	②# 7119 (東京消防庁救急 相談センター) ^{※2} における 発熱等相談件数		148.3件	154.0件	→	209.7件 (2021/8/16)	就業制限を受ける者が多数発生して おり、社会機能の低下が危惧される。	
		③新規陽性者 における接触 歴等不明者※1	数	6,780.4人	10,520.0人		10,520.0人 (2022/2/2)	家庭や日常生活において、誰もが、 感染者や濃厚接触者となる可能性が あることを意識し、自ら身を守る行 動を徹底する必要がある。 個別のコメントは別紙参照	
			增加比 ※3	226.9%	155.2%		1,095.6% (2022/1/9)		
	検査体制	④検査の陽性率 (PCR・ 抗原) (検査人数)		30.5% (24,366人)	36.4% (26,200人)	/	36.4% (2022/2/2)	総括 コメント	医療体制がひっ迫している
医療提供体制	受入体制	⑤救急医療の東京ルー ル ^{※4} の適用件数		245.9件	253.4件	\longrightarrow	259.0件 (2022/1/30)	現在、たとえ肺炎は軽症であっても、 新型コロナウイルス感染症と併存す る他の疾患のため集中治療を要する 患者も増加傾向にある。その動向を 注視し、医療提供体制のひっ迫度合 いを把握する必要がある。 個別のコメントは別紙参照	
供 体 制		⑥入院患者数 (病床数)		3,027人 (6,189床)	3,720人 (6,415床)	/	4,351人 (2021/9/4)		
		⑦重症患者数 人工呼吸器管理(ECMO含む)が 必要な患者(病床数)		18人 ^(370床)	30人 (377床)	/	297人 (2021/8/28)		

- ※1 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。
- ※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口
- ※3 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価
- ※4 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータ	による都民年代別
ワクチン接種状況	(2月1日現在)

高齢者(65歳以上)

1回目78.4%

2回目77.8%

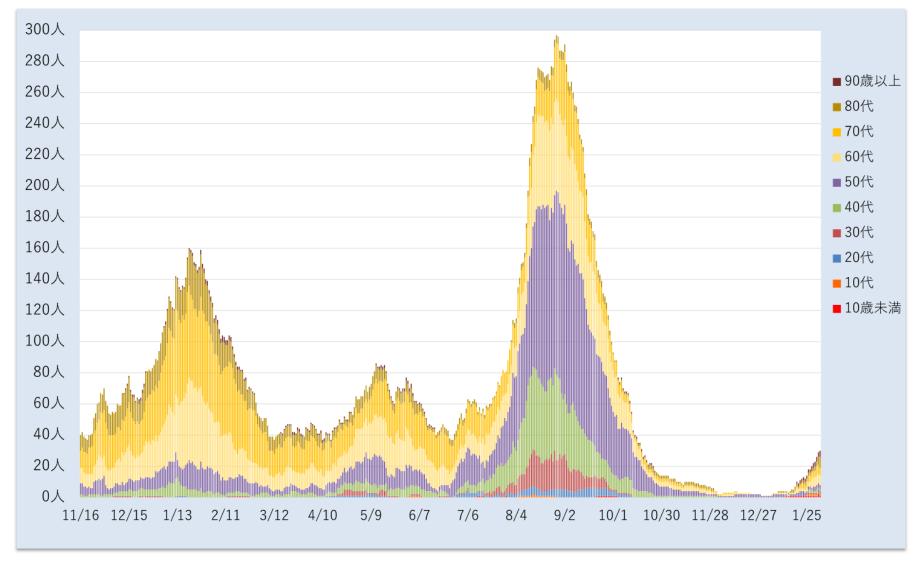
1回目86.5%

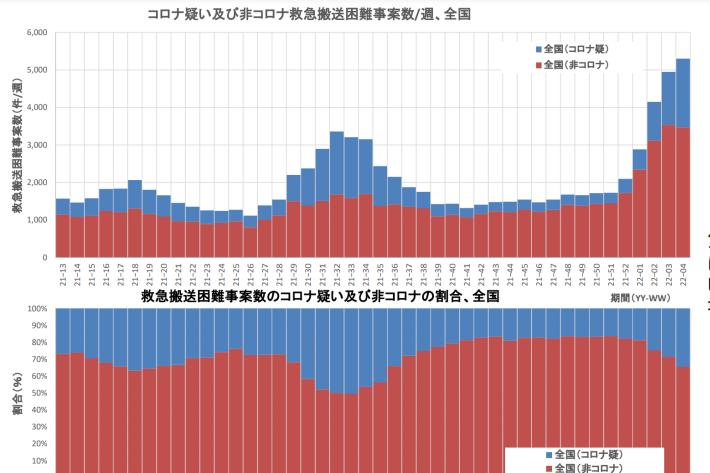
2回目85.7%

1回目92.6%

2回目92.2%

【医療提供体制】⑦-2 重症患者数(年代別)





0%

21–20

21-21 21-22

21-25 21-26 21-27 21-28 21-29 21-30 21-31 21-32 21-33 21-34 21-35 21–36 21-37 21-38 21-39 21-40 21-41 21-42 21-43 21-44 21-45 21-46 21–47 21-48 21-49 21-50 21-51 21-52

21-17 21-18

第6波の救急搬送困難は主に非コロナで増加し、徐々にコロナ疑いの増加が続いている

第70回(令和4年2月2日) 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザリーボード

22-02

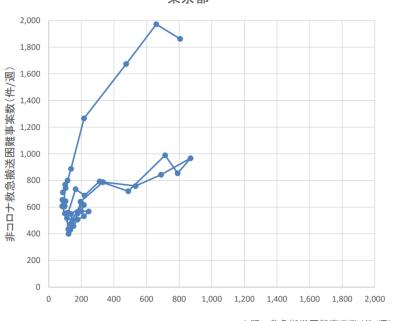
期間(YY-WW)

中島先生提出資料

資料3-10

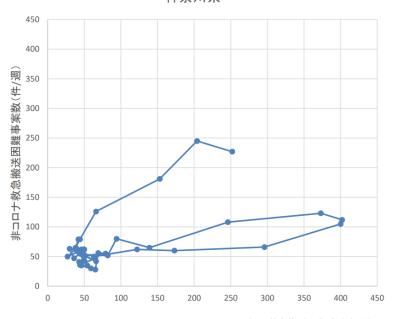
東京都、神奈川県

コロナ疑い及び非コロナ救急搬送困難事案数/週、 東京都



コロナ疑い救急搬送困難事案数(件/週)

コロナ疑い及び非コロナ救急搬送困難事案数/週、 神奈川県



コロナ疑い救急搬送困難事案数(件/週)

第70回(令和4年2月2日) 新型コロナウイルス感染症対策 アドバイザリーボード	資料3-10
中島先生提出資料	

《感染拡大緊急体制》医療提供体制の強化①

	保健•医療	オミクロン株 特別対応→感染拡大緊急体制					
	提供体制	病床確保レベル2	病床確保レベル3				
	医療機関	中中地位 上 以 11 0 5	確保病床 6,919床 ※感染者の重症度、病床の使用状況、 一般医療への影響等を考慮して順次実施				
	入院待機ST	病床確保レベル3へ 移行	46床 (平成立石病院 20床、永生病院 16床、東京北医療センター 10床)				
	酸素·医療ST 【施設型】	オミクロン株新規陽性者数が 概ね100人/日以上(7日間平均)	600床 (旧赤羽中央総合病院 150床、築地デポ 191床、調布庁舎 84床、 都民の城 140床、区主導型(練馬) 35床) 自宅療養者の外来機能、病床ひつ迫時における入院待機機能を追加				
	酸素·医療ST 【病院型】	又は増加比が概ね300%以上が 2週間継続の場合	120床 (荏原40床、豊島40床、多摩南部地域病院20床、多摩北部医療センター20床)				
	感染拡大時 療養施設	原則無症状の陽性者で、家庭内感染	たの可能性のある方等の入居施設(1/25 350床、2月上旬~ 650床、合計1,000床)				
	宿泊療養施設	8,000室確保、さらに11,000室確保。居室確保に向けてさらに調整 入所調整本部を強化(76→146名					
検査体制 行政検査:1月以降約10万件/日、無料検査:最大3万件/日(店舗拡大、期間延長、DXの推集中的検査の対象拡大、ベビーシッターを対象とした検査の実施							

令和4(2022)年1月19日(水)